

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】令和6年5月9日(2024.5.9)

【公開番号】特開2022-184978(P2022-184978A)

【公開日】令和4年12月13日(2022.12.13)

【年通号数】公開公報(特許)2022-229

【出願番号】特願2022-149313(P2022-149313)

【国際特許分類】

H 04 N 19/30(2014.01)

10

H 04 N 19/70(2014.01)

【F I】

H 04 N 19/30

H 04 N 19/70

【誤訳訂正書】

【提出日】令和6年4月26日(2024.4.26)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

20

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

レシーバー(102)とレイヤ識別エクステンダー(110)とを含み、

前記レシーバー(102)は、シーンの複数のビューのそれぞれについてビデオデータを運搬するマルチレイヤビデオ信号(104)を受信するように構成され、前記マルチレイヤビデオ信号はそれぞれにビューが符号化された複数のレイヤを含み、前記マルチレイヤビデオ信号は、ベースレイヤIDフィールド(108)と拡張レイヤIDフィールド(112)とで構成されたレイヤ識別構文要素構造をそれぞれ含むパケット(106)のシーケンスを含み、

前記レイヤ識別エクステンダー(110)は、複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の予め決められた部分(113)について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分(113)に含まれる前記パケット間で仮定される拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示す最大構文要素(114)を前記マルチレイヤビデオ信号から読み取り、

前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分内のパケットのそれぞれについて、前記レイヤ識別構文要素構造に基づいて前記各パケットのためのレイヤIDを決定し、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分内のレイヤの最大数を決定し、そして、

最大数のレイヤのそれぞれについて少なくとも1つの特性を決定するように構成されることを特徴とする、装置。

【請求項2】

前記マルチレイヤビデオ信号は、別のレイヤからレイヤ間予測された任意のレイヤが、更なるビュー、深度情報、アルファ混合情報、カラー・コンポーネント情報、空間解像度改良およびSNR解像度改良のうちの1つ以上を追加するように、レイヤ間予測を使用して異なるレイヤでビデオ素材を符号化していることを特徴とする、請求項1に記載の装置。

【請求項3】

前記パケット(106)は、NALユニット、スライス、タイルおよび画像からなるゲ

50

ループのうちの 1 つであり、前記予め決められた部分 (113) は、符号化済みビデオシーケンス、チャンクからなるグループまたは画像のグループのうちの 1 つであることを特徴とする、請求項 1 または請求項 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記最大仮定値を使って、前記拡張レイヤ ID フィールドのビット長を導出するようにさらに構成されていることを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の装置。

【請求項 5】

2 を底とする前記最大仮定値の対数を切り上げることによって、前記拡張レイヤ ID フィールドのビット長を導出するようにさらに構成されていることを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の装置。 10

【請求項 6】

前記特性は、前記最大数のレイヤのうちの他のいずれかのレイヤに対する前記各レイヤのレイヤ間予測依存性に関連することを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 5 のいずれかに記載の装置。

【請求項 7】

前記装置は前記マルチレイヤビデオ信号における明示的なシグナリングから前記拡張レイヤ ID フィールド (112) のビット長を得るように構成され、前記最大構文要素 (114) は、前記拡張レイヤ ID フィールド (108) の前記最大仮定値を、前記拡張レイヤ ID フィールドの前記ビット長から 1 を減算したもの (112) の 2 乗よりも小さい単位で示すことを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の装置。 20

【請求項 8】

前記装置は前記マルチレイヤビデオ信号における明示的なシグナリングから前記拡張レイヤ ID フィールド (112) のビット長を得るように構成され、前記最大構文要素 (114) は、前記拡張レイヤ ID フィールドの前記最大仮定値を 1 の単位で示すことを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の装置。

【請求項 9】

前記ベースレイヤ ID フィールドと前記拡張レイヤ ID フィールドとを連結することによって、前記各パケットについての前記レイヤ ID を前記レイヤ識別構文要素構造に基づいて決定するように構成されることを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の装置。 30

【請求項 10】

各レイヤについて決定された前記特性を使ったレイヤ間予測を使って、前記マルチレイヤビデオ信号を復号化するように構成されたビデオデコーダ、もしくは、

各レイヤについて決定された前記特性に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号のパケットを破棄するように構成されたネットワーク要素 であることを特徴とする、請求項 1 ないし請求項 9 のいずれかに記載の装置。

【請求項 11】

シーンの複数のビューのそれぞれについてビデオデータを運搬するマルチレイヤビデオ信号 (104) を受信するステップであって、前記マルチレイヤビデオ信号は、それぞれにビューが符号化された複数のレイヤを含み、前記マルチレイヤビデオ信号は、ベースレイヤ ID フィールド (108) と拡張レイヤ ID フィールド (112) とで構成されたレイヤ識別構文要素構造をそれぞれが含む、パケット (106) のシーケンスを含む、受信するステップと、 40

複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の予め決められた部分 (113) について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分 (113) に含まれる前記パケット間で仮定される前記拡張レイヤ ID フィールドの最大仮定値を示す最大構文要素 (114) を前記マルチレイヤビデオ信号から読み取るステップと、

前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分内の前記パケットのそれぞれについて、前記レイヤ識別構文要素構造に基づいて前記各パケットのためのレイヤ ID を決 50

定するステップと、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分内のレイヤの最大数を決定するステップと、

最大数のレイヤのそれぞれについて少なくとも1つの特性を決定するステップと、を含むことを特徴とする方法。

【請求項12】

ビデオ信号をシーンの複数のビューのそれぞれについてビデオデータを運搬するマルチレイヤビデオ信号(104)に符号化するためのエンコーダであって、前記エンコーダは、ベースレイヤIDフィールド(108)および拡張レイヤIDフィールド(112)とで構成されたレイヤ識別構文要素構造をそれぞれが含むパケット(106)のシーケンスを前記マルチレイヤビデオ信号に符号化することによって、それぞれにビューが符号化された複数のレイヤを前記マルチレイヤビデオ信号に符号化するように構成され、前記エンコーダは、

複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の予め決められた部分(113)について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分(113)に含まれる前記パケットの間で仮定される拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示す最大構文要素(114)を前記マルチレイヤビデオ信号に挿入し、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分内のレイヤの最大数を決定し、そして、

前記マルチレイヤビデオ信号(104)内の最大数のレイヤのそれぞれについて少なくとも1つの特性をシグナリングする
ように構成されることを特徴とする、エンコーダ。

【請求項13】

ビデオ信号をシーンの複数のビューのそれぞれについてビデオデータを運搬するマルチレイヤビデオ信号(104)に符号化するための方法であって、前記方法は、ベースレイヤIDフィールド(108)および拡張レイヤIDフィールド(112)とで構成されたレイヤ識別構文要素構造をそれぞれが含むパケット(106)のシーケンスを前記マルチレイヤビデオ信号に符号化することによって、それぞれにビューが符号化された複数のレイヤを前記マルチレイヤビデオ信号に符号化するステップを含み、前記方法は、

複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の予め決められた部分(113)について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分(113)に含まれる前記パケット間で仮定される前記拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示す最大構文要素(114)を前記マルチレイヤビデオ信号に挿入するステップと、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記予め決められた部分内のレイヤの最大数を決定するステップと、

前記マルチレイヤビデオ信号(104)内の最大数のレイヤのそれぞれについて少なくとも1つの特性をシグナリングするステップと、
を含むこと、を特徴とする方法。

【請求項14】

コンピュータ上で実行されると請求項11または請求項13に記載の方法を実行するように構成されたプログラムコードを有する、コンピュータプログラム。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

本応用の面のうちの1つは、マルチレイヤビデオ信号の層のための少なくとも1つの特性の信号(例えば個々の層に対してそれぞれの層がレイヤ間予測を介して直接に関連する依存層の標示など)の信号、または、前述の第2相互依存構文構造の信号に関係している

10

20

30

40

50

。この面に従って、最大の構文要素は、マルチレイヤビデオ信号のパケットの拡張レイヤ I D フィールドの使用された最大値を示すために、マルチレイヤビデオ信号内で信号が伝えられる。例えば、最大の構文要素の範囲は、マルチレイヤビデオ信号のいくつかの部分を横切って拡張している、マルチレイヤビデオ信号の既定の部分である。従って、この面によると、マルチレイヤビデオ信号の相対的に大きい既定の部分に対して、拡張レイヤ I D フィールドによって信号化できる可能な値の可能なドメインの実際に消費された部分についての知識を得ることは、マルチレイヤビデオ信号を受信するデコーダやネットワーク要素などの装置に対して適当である。少なくとも 1 つの特性が、ベースレイヤ I D フィールド値と拡張レイヤ I D フィールド値とのそれぞれの結合に対して信号で伝えられる必要はないけれども、むしろ、最大仮定値に基づいて決定された層の最大値のための少なくとも 1 つの特性を信号で伝えることは重要である。従って、少なくとも 1 つの特性は、レイヤ I D を持つ層のために送信 / 信号することは必要でない。その拡張レイヤ I D は、マルチレイヤビデオ信号の既定の部分内で起こらない。これを越えて、別の実施の形態に従って、最大仮定値の知識は、個々の部分のレイヤ I D を信号で伝えるためのサイド情報オーバーヘッドを減らすために、すなわち、マルチレイヤビデオ信号のパケット内の拡張レイヤ I D フィールドを信号で伝えるために必要なビットを減らすために使用される。

10

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

20

【訂正の内容】

【0011】

【図 1】図 1 は、HEVC の NAL ユニットヘッダーの構文を示す。

【図 2】図 2 は、マルチレイヤビデオエンコーダ、ネットワーク要素およびマルチレイヤビデオデコーダを含む環境を模式的に説明する。マルチレイヤビデオエンコーダ、ネットワーク要素およびマルチレイヤビデオデコーダは、以下の図面において説明された概念のいずれか、または、いずれかの結合によって改善される。

【図 3】図 3 は、ネットワーク装置、および、ネットワーク装置に到達するマルチレイヤデータストリーム内のクラスタな方法の層相互依存において信号で伝える概念を模式的に示す。

30

【図 4】図 4 は、図 3 の概念に従ってレイヤ間依存を信号で伝える方法を模式的に説明する。

【図 5】図 5 は、図 3 の信号概念を使う場合にレイヤ間依存を導出すために、より具体的な例を模式的に説明する。

【図 6】図 6 は、レイヤ I D 拡張を示している構文要素の方法によって拡張された HEVC 構文の一部分を示すことによって、スライスセグメントヘッダーの HEVC 構文の可能な拡張を示す。

【図 7】図 7 は、図 3 の信号概念を実施するために、例示的に拡張された VPS 構文の一例を示す。

40

【図 8】図 8 は、図 7 の例の代案を示す。

【図 9】図 9 は、図 7 の例の代案を示す。

【図 10】図 10 は、図 7 の例の代案を示す。

【図 11】図 11 は、拡張レイヤ I D フィールドの最大仮定値が、データストリームの中で信号によって伝えられる本応用のより一層の概念を設定するための装置を模式的に示す。

【図 12】図 12 は、図 11 の概念を模式的に説明する。

【図 13】図 13 は、拡張レイヤ I D フィールドを含むように拡張された HEVC のスライスセグメントヘッダーを取り出す部分の一例を示す。

【図 14】図 14 は、図 13 の拡張レイヤ I D フィールドの長さを示すために、構文要素を含むように拡張された VPS 構文の一例を示す。

50

【図 15】図 15 は、拡張レイヤ ID フィールドの最大値を示している構文要素を含むように拡張された VPS 構文の一例を示す。

【図 16 a】図 16 a は、拡張レイヤ ID フィールドを含むように拡張された SEI 拡張の構文構造を取り出す部分の一例を示す。

【図 16 b】図 16 b は、拡張レイヤ ID フィールドを含むように拡張された SPS 拡張の構文構造を取り出す部分の一例を示す。

【図 16 c】図 16 c は、拡張レイヤ ID フィールドを含むように拡張された PPS 拡張の構文構造を取り出す部分の一例を示す。

【図 17】図 17 は、図 11 および図 12 について説明された最大仮定値に依存している構文部分を、複数回繰り返して通ることによって、ビデオデータストリーム内の層に情報を信号で伝えている VPS 構文の一例を示す。 10

【図 18】図 18 は、特定の例に従って、特に、拡張レイヤ ID フィールドを示すために layer_id_ext を使用して、ベースレイヤ ID フィールドを示すために nuh_layer_id を使用して、及び、レイヤ ID を示すために layerID を使用して、拡張レイヤ ID フィールド、ベースレイヤ ID フィールドおよびレイヤ ID の間の模式的な例示関係を示す。そして、拡張レイヤ ID フィールドの表現可能な値の数が、max_layer_id_ext (plus1) によって示されている。ここでは、例として、LengthOfExtension を 2 と等しく設定することによって、拡張レイヤ ID フィールドの長さを 2 に選択することによって 3 に設定されている。

【図 19】図 19 は、拡張レイヤ ID フィールドを含むように拡張されたスライスセグメントヘッダーを取り出す部分の一例を示す。 20

【図 20 a】図 20 a は、ベースレイヤ ID フィールドの副フィールドの長さを示す構文要素を含むように拡張された VPS 構文の一例を示す。

【図 20 b】図 20 b は、拡張レイヤ ID フィールドを条件付きで明示的に信号で伝えるように修正されたスライスセグメントヘッダー構文を取り出す部分の一例を示す。

【図 21】図 21 は、図 18 の概念に従って実施された関係を使用してレイヤ ID を導出しているネットワーク装置の機能を説明するフローチャートを示す。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0062

30

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0062】

例えば、パケット 106 は、マルチレイヤビデオ信号 104 が副分割される NAL ユニット、スライス、タイル、画像、または別のパケットである。また、装置 100 に含まれたレイヤ識別エクステンダー 110 は、部分 113 のような複数のパケット 106 を含むマルチレイヤビデオ信号の既定の部分に対して、マルチレイヤビデオ信号の既定の部分 113 を含むパケット 108 の拡張レイヤ ID フィールド 112 の最大仮定値を示すマルチレイヤビデオ信号から最大構文要素を読み取る。既定の部分 113 は、例えば、符号化されたビデオシーケンス、大きな塊、画像のグループなどである。最大構文要素 114 は、例えば VPS_NAL ユニットのような部分 113 の特定のパケット内に含まれる。既定の部分 113 内のパケットのそれぞれに対して、エクステンダー 110 は、符号 108、そして、条件付きで符号 112 から成るレイヤ ID 構文構造に基づいて個々のパケットのためにレイヤ ID を決定する。例えば、構文要素 108 と 112 の両方の値の連結は、レイヤ ID を生じる。 40

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

50

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

エクステンダー110は、その時、最大仮定値に基づいて、部分112内の最大レイヤ数を決定する。例えば、エクステンダー110は、部分113に対して、部分113内のパケット106のベースレイヤIDフィールド108のための最大仮定値を示すデータストリーム104から構文要素も読み取り、そして、最大レイヤ数を決定するために両方の最大仮定値を結合する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

上で既に概説したように、フィールド112のビット長さの存在／信号化はオプションである。ともかく、構文要素114が実際に使用した／アクティブな拡張レイヤIDの数を示す粒状性／忠実性は、構文要素122によって設定された拡張レイヤIDフィールド112の利用できる／表現できる値の数をより粗く設定することに比べて増大する。好ましくは、構文要素114が拡張レイヤIDフィールド112の実際に仮定された値の数を示す忠実性または粒状性は、実際に仮定された値の正確な数を示すために極めて十分である。代わりに、ものの間のどこかの忠実性／粒状性、および、構文要素122によって提供されたフィールド112の利用できる／表現できる値の最大数の信号化の忠実性／粒状性が同様に実現できる。すなわち、最大構文要素114は、拡張レイヤIDフィールドのビット長さであるnを持つ $(n - 1)^2$ より小さい又は等しいユニットの中の拡張レイヤIDフィールド108の最大仮定値を示す。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

従って、図11と図12に従って、ネットワーク要素またはマルチレイヤビデオコーダなどの装置が、レシーバー102およびエクステンダー110を含むことが説明される。レシーバー102は、一連のパケット106から成るマルチレイヤビデオ信号104を受信するように構成されている。パケット106のそれぞれは、ベースレイヤIDフィールドおよびことによると条件付きのみで拡張レイヤIDフィールド112から成るレイヤ識別構文要素構造を含む。レイヤ識別エクステンダー110は、一連のパケット106の外の複数のパケットを含むマルチレイヤビデオ信号の既定の部分113に対して、マルチレイヤビデオ信号104から最大構文要素114を読み取るように構成されている。最大構文要素114は、既定の部分113によって構成されたパケット106の間の拡張レイヤIDフィールド112の最大仮定値を示す。エクステンダー110は、既定の部分113内のパケット106のそれぞれに対して、上で概説されたフィールド108と112のベースレイヤIDと拡張レイヤIDとを連結することなどによって、レイヤ識別構文要素構造に基づいた個々のパケット106のためのレイヤIDを決定する。エクステンダー110は、また、最大仮定値に基づいた既定の部分113内の最大レイヤ数を決定し、最大レイヤ数のそれぞれに対して、レイヤ特性化構文部分104を、最大レイヤ数と等しい回数繰り返して構文解析することによって、少なくとも1つの特性を決定する。「最大レイヤ数」は、図11と12の実施の形態を図2～図10について上記で概説した実施の形態と結合するとき、クラスタ当たり最大レイヤ数を示す。この場合、「最大レイヤ数」の決定は、例えば、最大仮定値を「最大レイヤ数」として直接に採用する。「少なくとも1つの特性」は、第2相互依存構文構造内のレイヤ間依存を示しているフラグの数である。しかし、特性の別の例は、個々のレイヤIDに対して設定された一致している符号化パラメ

10

20

30

40

50

ータのデータストリーム内の信号化でもある。その場合、「最大レイヤ数」は、使われた又は表現できるベースレイヤIDの数 × 最大仮定値、すなわち実際に使用された / 仮定された拡張レイヤIDの数と等しいように決定される。別の例は同様に実現可能である。ともかく、構文要素114の方法によって実際に仮定された値の伝達は、貴重なサイド情報ビットレートを保存することを可能にする。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0088

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

10

【0088】

当然、上で概説された概念は、概念によって改善される符号器の既存のエンコーダも詰め込む。図2のようなエンコーダは、一連のパケット106から成るマルチレイヤビデオ信号104の中にビデオ信号を符号化するように構成されている。パケット106のそれぞれは、ベースレイヤIDフィールド108と拡張レイヤIDフィールド112から成るレイヤ識別構文構造を含む。さらに、このエンコーダは、複数のパケットを含むマルチレイヤビデオ信号の既定の部分113に対して、最大構文要素114をマルチレイヤビデオ信号の中に挿入し、マルチレイヤビデオ信号の既定の部分113を含むパケットの拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示し、最大仮定値に基づいてマルチレイヤビデオ信号の既定の部分内の最大レイヤ数を決定し、最大レイヤ数のそれぞれに対して、マルチレイヤビデオ信号のレイヤ特性化構文部分124を最大レイヤ数と等しい回数繰り返し書くことによって、マルチレイヤビデオ信号104の中に少なくとも1つの特性を信号で伝えるように構成されている。例えば、エンコーダは、部分113の符号化を終えるまで、ストリーム104の出力を延期する。

20

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0117

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

30

【0117】

装置は、

レシーバー(102)とレイヤ識別エクステンダー(110)とを含み、

前記レシーバー(102)は、それぞれがベースレイヤIDフィールド(108)と拡張レイヤIDフィールド(112)とで構成されたレイヤ識別構文要素構造を含む一連のパケット(106)から成るマルチレイヤビデオ信号(104)を受信するように構成され、

前記レイヤ識別エクステンダー(110)は、複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の既定の部分(113)について、前記マルチレイヤビデオ信号の既定の部分(113)に含まれる前記パケットの拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示す最大構文要素(114)を前記マルチレイヤビデオ信号から読み取り、

40

前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分内の各パケットについて、前記レイヤ識別構文要素構造に基づいて前記各パケットのためのレイヤIDを決定し、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分内の最大レイヤ数を決定し、そして、

前記マルチレイヤビデオ信号のレイヤ特性化構文部分(124)を、最大レイヤ数と等しい回数繰り返して構文解析することによって、最大レイヤ数のそれぞれについて少なくとも1つの特性を決定するように構成されている。

【誤訳訂正10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0120

50

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 0】

請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の装置は、前記最大仮定値を使って、前記拡張レイヤ ID フィールドのビット長さを導出するように構成されている。

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 1】

請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の装置は、2 を底とする前記最大仮定値の対数を切り上げることによって、前記拡張レイヤ ID フィールドのビット長さを導出するように構成されている。

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 3】

請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の装置は、ビットストリームの中の明示的なシグナリングから前記拡張レイヤ ID フィールド (1 1 2) のビット長さを得るように構成され、前記最大構文要素 (1 1 4) が、2 つのパワーのために前記拡張レイヤ ID フィールド - 1 (1 1 2) のビット長さより小さいユニットの中の前記拡張レイヤ ID フィールドの最大仮定値を示す。

【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 4】

請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の装置は、ビットストリームの中の明示的なシグナリングから前記拡張レイヤ ID フィールド (1 1 2) のビット長さを得るように構成される装置であって、前記最大構文要素 (1 1 4) は、前記拡張レイヤ ID フィールド (1 0 8) の最大仮定値を、1 を単位として示す。

【誤訳訂正 1 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 7】

方法は、

それぞれが、ベースレイヤ ID フィールド (1 0 8) と拡張レイヤ ID フィールド (1 1 2) とで構成されたレイヤ識別構文要素構造を含むパケットのシーケンス (1 0 6) から成るマルチレイヤビデオ信号 (1 0 4) を受信し、

複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の既定の部分 (1 1 3) について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分 (1 1 3) に含まれる前記パケットの拡張レイヤ ID フィールドの最大仮定値を示す最大構文要素 (1 1 4) を前記マルチレイヤビデオ信号から読み取り、

前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分内のパケットのそれぞれについて、前記

10

20

30

40

50

レイヤ識別構文要素構造に基づいて前記各パケットのためのレイヤIDを決定し、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分内の最大レイヤ数を決定し、

前記マルチレイヤビデオ信号のレイヤ特性化構文部分(124)を最大レイヤ数と等しい回数繰り返して構文解析することによって、最大レイヤ数のそれぞれについて少なくとも1つの特性を決定する。

【誤訳訂正15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0128

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0128】

エンコーダは、

それぞれが、ベースレイヤIDフィールド(108)と拡張レイヤIDフィールド(112)とで構成されたレイヤ識別構文要素構造を含むパケット(106)のシーケンスから成るマルチレイヤビデオ信号にビデオ信号を符号化するためのエンコーダであって、前記エンコーダは、

複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の既定の部分(113)について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分(113)に含まれる前記パケットの拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示す最大構文要素(114)を、前記マルチレイヤビデオ信号に挿入し、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分内の最大レイヤ数を決定し、そして、

前記マルチレイヤビデオ信号のレイヤ特性化構文部分(124)を最大レイヤ数と等しい回数繰り返して書き込むことによって、前記マルチレイヤビデオ信号(104)の最大レイヤ数のそれぞれについて少なくとも1つの特性を信号で伝えるように構成される。

【誤訳訂正16】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0129

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0129】

方法は、

それぞれが、ベースレイヤIDフィールド(108)と拡張レイヤIDフィールド(112)とで構成されたレイヤ識別構文要素構造を含むパケット(106)のシーケンスから成るマルチレイヤビデオ信号(104)にビデオ信号を符号化するための方法であって、前記方法は、

複数のパケットを含む前記マルチレイヤビデオ信号の既定の部分(113)について、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分(113)に含まれる前記パケットの拡張レイヤIDフィールドの最大仮定値を示す最大構文要素(114)を前記マルチレイヤビデオ信号に挿入し、

前記最大仮定値に基づいて、前記マルチレイヤビデオ信号の前記既定の部分内の最大レイヤ数を決定し、

前記マルチレイヤビデオ信号のレイヤ特性化構文部分(124)を最大レイヤ数と等しい回数繰り返して書き込むことによって、前記マルチレイヤビデオ信号(104)内の最大レイヤ数のそれぞれについて少なくとも1つの特性を信号で伝える。

10

20

30

40

50